

【現状・課題・目的】

①宗谷地域は、通年で強風にさらされる厳しい環境であり、海岸線の多くがササ葎地であり、住民の生活環境の改善を目的として海岸防災林造成事業が開始され約50年が経過。

②これらの海岸防災林については、植林木の過密化による公益的機能の低下が見られ、将来にわたり活力ある森林としてその機能を発揮・維持していくため、効果的・効率的な森林整備が必要。

③管内の民有林にも多くの防風林が存在することから、民・国を問わず、宗谷地域の海岸防災林を始めとした防風林のモデル林を形成し、施業方法の確立に向けて取り組むこととした。

【これまでの取組み】

①平成26年度に「メークマ地区海岸防災林全体計画調査業務」において林況調査を実施。

②宗谷流域森林・林業活性化協議会にてメークマ海岸林の伐採予定地及び伐採跡地において現地検討会を実施し、施業による林地への影響などについて市町村担当者等と意見交換を実施。



③民有林にも多くの防風林があることから、宗谷流域森林・林業活性化協議会総会において「海岸防災林に関する部会」を設置。H28.8に第一回部会を開催。

④平成28年度に「浜頓別地区海岸防災林全体計画調査業務」において林況調査を実施。

【平成29年度の取組結果・成果】

H29.9.12現地検討会

＜現地検討会の開催及びアンケートの実施＞

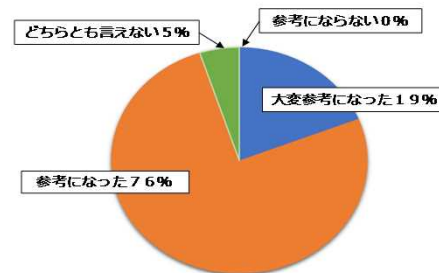
浜頓別地区の国有林と民有林の海岸防災林で現地検討会を開催。双方の現状の課題や取組状況等を意見交換し併せてアンケート実施した中で、

- ① 施業事例が極めて少ない。
- ② 手探りの中での施業で問題点が見えない。

等の意見が多く聞かれ「参考になった」との高評価が得られた。事例の蓄積や、検討会等の技術交流を引き続き行っていくこととした。



現地検討会の結果95%が参考になったと回答



＜普及に向けて＞

次回開催する地域林政連絡会議にて海岸防災林の施業に関する現地検討会の報告書を配布し、今後も民国連携して事例の蓄積を行い施業の確立に向けて検討する予定。



H29施業後の防風林(国有林)

【今後の取組みで目指すところ】

①現地検討会により、それぞれの取り組みの成果について民有林と国有林で情報共有と技術検討を図ることにより、双方の知識や技術の向上を図る。

②現地検討会の結果を取りまとめ、関係市町村や関係団体に情報発信を行い、防風林施業等に関する普及を推進。

③これまでの海岸防災林に関する施業及び防風林整備の事例集を作成。

④これらの成果を、来年度以降にフィードバック

【今後の目標】

- ◆ 計画的に本数調整伐を実施しながら、モニタリング調査を行い、施業方法なども細かく検討。継続的にPDCAサイクルを繰り返しながら、民有林にも参考となるマニュアル（事例集）を作成し、将来的に宗谷地区の防風林施業の確立を目指す。
- ◆ 「海岸防災林に関する部会」等を通じて、定期的に現地検討会を開催し、取組状況や成果などの情報を発信するとともに、様々な防風林の整備事例を蓄積する。